

彦根市男女共同参画社会づくり広報誌

# かけはし

令和6年3月1日発行

第43号

つなぐ

つながる

つなげる

2003.10.1～2023.ウィズの軌跡

2023.9.30  
to be continued.

p2.3 Z世代の私たち 意外とこんなことを考えてます。  
p4.5 地域交流でつなぐ男女共同参画  
p6.7 あなたにとって「つながり」とは？

2003.10.1 start



【編集・発行】

彦根市男女共同参画センター「ウィズ」

〒522-0041 彦根市平田町670

TEL/FAX 0749-24-3529

E-mail with.hikone@oboe.ocn.ne.jp

【編集委員】高木賀子、三宅弘樹、村田雅子

【表紙 写真】彦根市男女共同参画センター「ウィズ」

【表紙 デザイン】高木賀子



※1

# Z世代の私たち

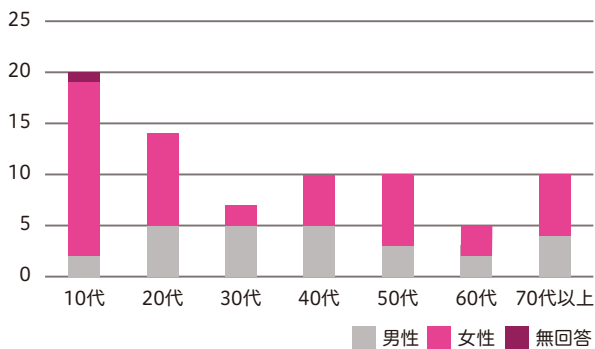
## 意外とこんなこと 考えてます。

※1 Z世代とは、1990年代後半から2010年頃に生まれた世代を指す言葉。生まれた時からすでにインターネットがあった世代。  
(引用元：野村総合研究所)

私は滋賀大学の学生です。彦根市には滋賀大学、滋賀県立大学、聖泉大学の3つの大学があります。しかし私たちZ世代は何を考えているのかわからないとよく言われます。そこでアンケートを作成し、私たち大学生と社会人の価値観を調べてみました！

(アンケート回収76人)

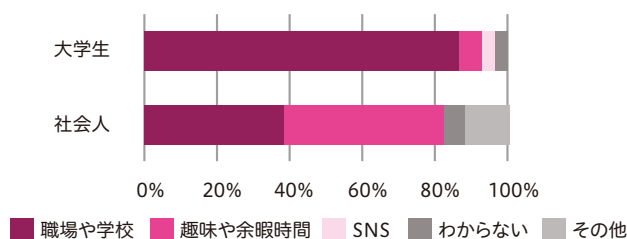
▼アンケート回答者の年代



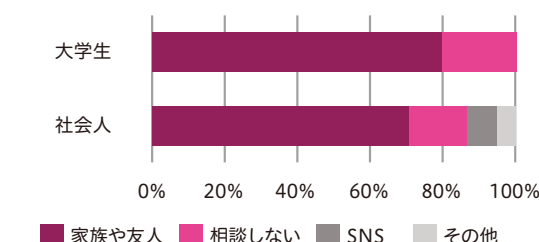
## 仕事観

(表1)を比較してみると回答数の多い順番は同じですが、大学生は社会人に比べて周囲の評価と答えた人の割合が多くなっています。また仕事選びで優先することに「周囲の評価」と回答した多くの人は仕事よりも私生活を優先したいと回答していました。これは大学まで育ててくれた親からの期待に応えたいという思いや、将来のビジョンがはっきりと決まっていないというのがあるのかもしれません。

▼友人をつくる場所や手段(表3)



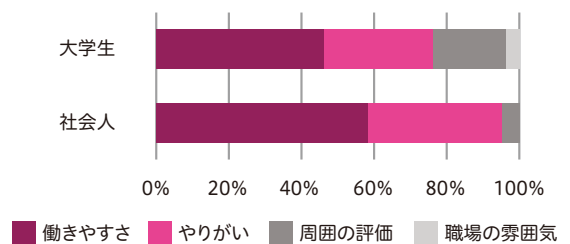
▼悩みの相談相手(表4)



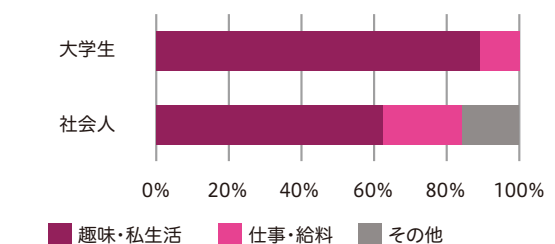
## 調査対象

今回の調査では10代から70代以上と幅広い年代の人にご協力いただきました。10代20代のうち大学生と回答のあった人を「大学生」それ以外の人を「社会人」として区分しています。

▼仕事選びで優先すること(表1)



▼仕事とプライベートのどちらを優先しますか(表2)



## 人間関係

(表3)を見ると大学生は社会人と比べて学校や職場で友人を作る人の割合が多くなっています。反対に社会人は趣味や余暇時間での友人作りが多くなっています。これは大学生にとって学校で過ごす時間が大半であるからだと考えられます。またSNSで友人を作るZ世代が多いと思われがちですが、意外と少ないことがわかります。また(表4)でSNSと回答した方が大学生にはおらず社会人で数人いて意外な結果となりました。

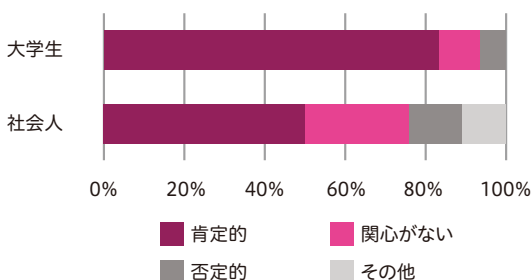
## ※2 LGBTQ+

(表5)を見ると大学生と社会人ではLGBTQ+に対する理解度に大きく差が出ました。また(表6)でも大学生の80%以上が肯定的であるのに対し、社会人は約半数という結果になりました。これは大学生は小さい頃からテレビやSNSなどで同性愛などについて触れる機会が多かったことが挙げられます。

※2 性的少数者を指す言葉。

(引用元: Spaceship Earth)

▼LGBTQ+に対する考え(表6)

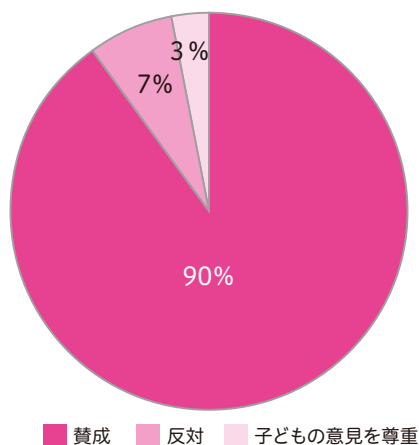


## 同性婚

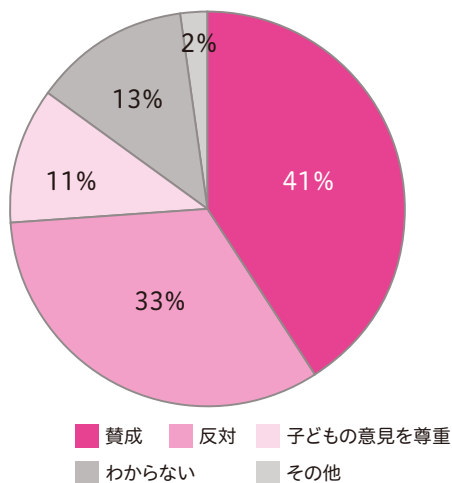
自分の子どもが同性婚を望んだ場合の考えの違いについて(表7)と(表8)を比較すると、大学生はほとんどの人が我が子の同性婚に賛成するのに対し、社会人で賛成した人は回答者の41%で反対が33%という結果になりました。これは(表5)と(表6)からわかるように大学生と社会人のLGBTQ+に対する理解度やイメージの違いが関係しているのではないかと考えられます。また、(表6)で肯定的と答えた方でも我が子の同性婚となると反対と回答している方もいて、詳細な分析をした結果、否定的だが子どもが同性婚を望むなら賛成すると回答した方も見られ、置かれる立場や状況によって考え方が変わることがわかります。

子どもが同性婚を望んだ場合

▼大学生(表7)



▼社会人(表8)



## 編集委員から一言

私たちZ世代はスマホばかり見ていて何を考えているのかわからないと思うこともあるかもしれませんが、仕事観などについてはあまり各世代で違いがないということがわかりました。また、Z世代はSNSなどでさまざまな価値観や考えをよく目にするためLGBTQ+や同性婚など受け入れることができますが、社会人との考えの違いがここまで大きいとは思いませんでした。今回は「大学生」と「社会人」という分け方をしましたが、性別で分析してみると仕事観や同性婚に対する考えなどに違いが見えてきました。各々の属性によって考え方に違いがありますが、互いに受け入れることができるようになりたいですね。



# 地域交流でつなぐ 男女共同参画



## （ 地域交流を考える ）

皆さんは地域交流と聞いて、何を思い浮かべますか？近年、家族の形が変わったり、人が都市に集まったり、地域のイベントが減ったり、インターネットが発達したことにより、地域のつながりが薄くなっているように感じます。

※ここでの地域交流は、近所の人と挨拶をすることや地域のイベントに参加することなどを指しています。

私は大学進学と同時に、彦根に暮らし始めました。そして、彦根の人とたくさん会話をしてみたいという思いがあり、地域交流に参加してきました。

私の経験談も交えながら、地域交流について一緒に考えてみませんか。



## （ 地域交流に関心を持ったきっかけ ）

私が地域交流に関心を持ったきっかけは、彦根で暮らし始めたときに、もっと彦根の人と会話して、彦根について知りたいと考えたことからでした。

最初は、どのように関わりを作っていけばよいのか分からず、イベントに参加してみることにしました。彦根で子ども食堂をやっている場所があると聞き、連絡を取ると、見学させていただけることになりました。その日は、少しだけお手伝いをさせてもらい、子ども食堂の皆さんとお話をしました。大学生は私だけで緊張していましたが、温かく迎えていただき、子ども食堂や料理、彦根のお話をたくさん聞くことで、安心を感じるとともに、当時一人暮らしを始めたばかりで、知らぬ間に孤独や不安を感じていたことに気づきました。今でもその日のことを振り返ると、安心感から無意識のうちに胸が熱くなります。

その日以降、子ども食堂のお手伝いに行っています。料理の知識や技術を持っていない私でも参加することができ、とても大切な居場所であると感じています。

地域交流を行うことで、いろいろな考え方や立場の人と会話をし、一人ひとりの能力や関心を尊重できるようになります。それにより、古いステレオタイプ\*を無くし、より男女共同参画社会に近づくことができます。

子ども食堂の参加をきっかけに、いろいろなイベントや交流ができる機会を探し、地域との交流を意識するようになりました。地域交流をしていると、様々な気づきや発見があります。それらを探しに、地域交流をしてみませんか？



\*ステレオタイプ…多くの人に浸透している先入観や思い込み

地域交流の一步を踏み出してみませんか！！

## 体験談 1

### 雪かき

私が彦根に来て、驚いたのは雪の降る量でした。年が明けたばかりのある日、雪かきのお手伝いに行きました。その年は、彦根でも雪がたくさん降り、初めて雪が積もっているのを見て、とても驚きました。

私は、小学校の通学路が積雪でふさがれているため、除雪をしました。

雪かき是一日を通して行われましたが、雪は想像している以上にとても重く、少しのスペースを空けるだけでも大変な労力が必要でした。午後からは除雪機も加わり、みるうちに通学路が現れました。

どこに雪を持っていけばよいのか、どのようにすれば上手に雪かきができるのかなど、初めてのことで戸惑いましたが、周囲の方に尋ねると、誰もが優しく教えてくれました。

雪かきをしながら会話をする事で地域のことを知ることができ、地域の困りごとを解決する手助けができたほか、私にとって、積雪量や除雪機などどれも新鮮で、学校では学べない、非常に貴重な経験ができました。



## 体験談 2

### 料理教室

地域交流をしていて、一番に感じる利点は、多くの人の話から、いろいろな考え方を知ることができることです。ある時、私はインド料理を学べる男性のための料理教室の企画があることを知り、参加しました。

年齢層が違う方々と一緒に、講師から作り方や食材に関することやインドの食生活についても学びました。

私は料理経験があまりなかったので、料理の基礎的な知識や技術を講師や周りの参加者から教えてもらいました。大学生の私にとって、社会人の方と接する機会はとても貴重で、お話を聞くことで自身の将来と重ね、将来像のイメージを膨らませることができました。

#### ☆体験を通して感じたこと

地域交流やイベントなどに参加する場合、活動内容によっては、体力的な負担や費用負担、活動に参加する時間を費やすことになります。しかし、多様なお話を聞くことは考え方や価値観が豊かになり、交流することで学びを得ることができたと感じます。

新しい活動に取り組むと、初めてのことや分からないことに直面することもあります。そんな時にはどんどん周囲の人に相談し、交流の輪を広げましょう。

そして、男女共同参画社会を私たち一人ひとりが意識することは大切ですが、このような経験が男女共同参画社会の構成に役立つと感じました。実際に何をすれば？と思ったときには、地域交流が最初のステップと感じました。



## 編集委員から一言

私は、この記事が彦根でもっとたくさんの地域交流が増えてほしいという思いで書きました。これまでに彦根で様々なイベントに参加し、彦根の人々の温かさたくさん触れてきました。そんな温かいこの町で、よりたくさんの人とつながることはきっと難しいことではないと思います。学生や社会人、大人や子どもといった、年齢・立場・性別・考え方の垣根を越えたたくさんの交流が生まれ、彦根がよりよくなっていくことを考える一歩にこの記事がなると嬉しいです。

# あなたにとって【つながり】とは？



人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら暮らしていくことのできる社会を作るため、今回は男性のイメージが強いとされやすい【自治会役員・消防署員・自衛隊員】の3つの分野で活躍する6人の女性を取材しました。

## 【掲載内容】

- 1 仕事
- 2 編集委員よりインタビュー者の紹介
- 3 質問1：あなたにとっての【つながり】一言で例えると何？一番大切にしていることは？
- 4 質問2：もしも総理大臣などの立場になったとき、地域や職場の【つながり】で何がしたいですか？

### 1 自治会長

#### 2 サンライズ旭森の自治会長として活躍しているT・Eさん

2010年自治会発足当時は13世帯だったが、現在は約165世帯。自治会長は、仕事の都合で夫が県外に居住しているため、T・Eさんが引き受けられました。

地域のみなさんからの人望も厚く誰からも頼りにされる存在です。

#### 3 【人と人との感謝の輪】

子育て世帯が多い地域のため、家庭だけでなく地域で交流し協力しながら地域活動を進めていくことが大切。

#### 4 団地内に子どもが安全に遊び、保護者も安心して利用できる 大きな公園を作り、今よりもっと子育てのしやすい場所にしたい。



### 1 自治会副会長

#### 2 正法寺町太平団地で自治会副会長として活躍している東さん

2023年は団地誕生50周年を迎え、約260世帯。自治会副会長は「断る理由が何もなかったから」と引き受けられ、女性の役員数30%。高齢化率は37%を超えるが、性別世代に関係なく町内全員で地域を運営しておられます。

#### 3 【必要な時に助け合いができること】

年齢や性別、国籍、立場に関わらずさまざまな視点を取り入れることが大事。本当に困ったときに互いに助け合える関係性の構築が大切。

#### 4 世界平和を願うとともに、夫婦別姓や同性婚など性別で差別されない法整理を行いたい。また、誰も取り残さない社会を目指すなか、IT化についていけない高齢者等へのフォローも必要。



### 1 消防署員

#### 2 彦根市消防署本部で消防隊員として活躍している田中さん

人のために尽くし、生涯をかけて自分自身が成長できる環境で仕事がしたいと考え、消防士になりました。県外の消防本部で経験した知識や経験を彦根消防で生かし、現在は樋口さんと一緒に消防職員として働かれています。



#### 3 【笑顔】

24時間勤務だからこそ職場でのコミュニケーションと休憩時間での楽しい雰囲気作りが大切。市民の方とお話する時は、親しみやすいと思っていただけるように明るい笑顔を心がけています。

#### 4 少子高齢化時代、学校で学べない知識の習得のためにも高齢者と子どもの交流の場を増やしたい。



### 1 消防署員

#### 2 彦根市消防署本部で救急救命士として活躍している樋口さん

女性では彦根初の救急救命士として2017年採用され、今年で7年目を迎えられました。救急救命士は、看護師として医療の第一線で働いていた母から勧められたことと、東日本大震災を経験したことから「人の命を守る仕事がしたい」と目指し、現在、救急救命士として第一線で働いておられます。

#### 3 【生きていくうえで必要不可欠なもの】

細やかな部分に目を向け、搬送者に必要なケアを行うためにも職場内での情報共有やコミュニケーションが大切。署員が連携をとり搬送したことで、のちにお礼の手紙などをもらおうと嬉しくなります。

#### 4 暑い時期や、寒い時期に買い物や病院に自転車や徒歩で行く高齢者を見ることが多いので、もっと便利な公共交通機関を増やしたい。



### 1 自衛隊員

#### 2 自衛隊滋賀地方協力本部で人事担当として活躍しているHさん

滋賀地方協力本部で勤務し4年。

学生時代に本屋で、問題集を見たのをきっかけに自衛隊員になろうと思われました。現在では、趣味の洋画鑑賞を楽しみ、隊員の書類手続きなど多種多様に働かれています。

#### 3 【縁】

つながりとは出会いであり、人と人の縁を築くには、公平な視点と当たり前の精神が大切。



### 1 自衛隊員

#### 2 自衛隊滋賀地方協力本部で会計担当として活躍しているTさん

滋賀地方協力本部で勤務し3年。休日は子どもと遊び、平日はしっかりと

仕事をする、そして滋賀の地酒が大好き！まさにWLB（ワーク・ライフ・バランス）を実現されています。

#### 3 【信】

つながりとは信頼からなるもの。相手のことを思いやり、確認や感謝の気持ちを忘れないことが大切。



## 編集委員から一言

今回の取材を通して、家庭・職場・町内会などの地域活動のなかで、年代・性別問わず、いろいろな目線や視点から意見を活発にかわしながら認め合うことで、新たな発想や質の高い毎日につながると感じました。日々の生活向上はもちろん、自分の子どもや孫のためにも将来に安心を残してあげたいと今回の取材を通じ、心から思いました。これからも【つながり】の輪がより一層広がりますように…。

# 第38回 彦根市男女共同参画フォーラム

ウィズで集う会主催  
ウィズ開館20周年記念事業

With Meetingを開催します！



場所/彦根市男女共同参画センター「ウィズ」

13:30~14:45 自由参加

これまでの20年間を振り返る座談会

1回目 15:00~16:30 事前申込  
2回目 17:00~18:30 各回定員15名

これからを自由に考え、話し合う哲学対話  
そもそも悩むってなんだろう？

申込フォーム



フォーラム(左)の前に  
哲学対話を体験したい  
方にもおすすめです



記念バッジを作製しました！

彦根市男女共同参画センター

ウィズ開館20周年記念

ウィー・ズー&ひこにゃんコラボバッジ



ご希望の方はウィズまでお問い合わせ下さい  
1個300円以上の協力金寄付をお願いします  
協力金はウィズ開館20周年事業の一部に  
活用させていただきます

ウィズ相談室のご案内

総合  
相談

面接相談 水・木・金  
電話相談 13:00-16:00  
※最終受付は15:30です

専門  
相談

法律相談 …毎月1回  
こころの悩み …毎月1回  
※総合相談での予約が必要です

相談は無料 プライバシーは守られます

専用ダイヤル 0749-21-5757



哲学対話の第一人者  
梶谷真司さん

## 講師プロフィール

東京大学大学院 総合文化研究科教授・哲学者。  
学校や企業、地域コミュニティなどで「共に考える場」を  
作る活動を行い、いろんな人が共同で思考を作り上げていく  
「共創哲学」という新しいジャンルを追求している。  
近著に『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの  
哲学入門』(幻冬舎)、『問うとはどういうことか 人間的に  
生きるための思考のレッスン』(大和書房)がある。

職場、学校、家庭やコミュニティで求められる  
役割や「らしさ」。なぜ私たちは窮屈さを感じ  
てしまうのでしょうか。

「哲学対話」での「共に問い、考え、語り、聞  
く」体験には、私たちが窮屈さから自由になる  
ためのヒントが詰まっています。

「哲学対話」とは、子どもから大人まで輪にな  
って座り、ひとつのテーマについて、自由に話  
をしながら一緒に考えていくものです。

なぜ対話するだけで  
自由になれるのか  
—はじめての哲学対話—



2024 3/24 (日)

参加  
無料

13:00-16:00 受付 12:40-

COZY TOWN 研修室  
アル・プラザ彦根4階  
彦根市大東町2-28

事前申込 先着80名 申込〆切 3/20(水)

手話通訳あり・託児あり 先着5名 申込〆切  
(0才~未就学児) 3/14(木)

主催：彦根市男女共同参画フォーラム実行委員会  
共催：彦根市男女共同参画センター「ウィズ」  
後援：彦根市

## タイムスケジュール

13:00- 開会・市長挨拶  
彦根市男女共同参画事業者表彰  
13:30- 講演  
14:20- 哲学対話ワークショップ  
16:00- 閉会

申込フォーム



彦根市男女共同参画センター「ウィズ」



お問い合わせ

彦根市男女共同参画センター「ウィズ」  
TEL・FAX 0749-24-3529  
E-mail with.hikone@oboe.ocn.ne.jp